

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	14070
課題名	前眼部光干渉断層計を用いたレーザー虹彩切開の閉塞因子の検討
研究期間	西暦 2012年 8月14日 ～ 2019年 8月1日（調査・データ解析の期間）
利用する情報、検体	<p>■診療情報（詳細：年齢、性別、レーザー虹彩切開施行時の情報、前眼部光干渉断層計検査の結果）</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>※以下の期間に収集した情報、検体が対象となります 西暦 2012年 6月1日 ～ 2014年 6月30日</p>
研究の意義、目的	<p>緑内障には、茶色目の端にある、眼内の水の排水路付近が狭くなってきて眼圧が高くなるものがあります。このような緑内障の方には、レーザーを使用して茶色目の端に小さな穴を開け、水の流れをよくする治療を行います。しかし、年月が経つとレーザーで茶色目に開けた穴に透明な膜ができて、実際には閉じてしまっていることがあります。穴が閉じてしまうと、急に眼圧が高くなって、視力、視野障害を起こすことがあります。レーザーで開けた茶色目の穴が、どのような目の構造の人で閉じやすいのかを調べます。</p>
研究の方法	<p>当院緑内障外来に通院されており、レーザーで茶色目に穴をあけており、前眼部光干渉計という機械の検査がすでに終了している方が対象となります。この機械の検査結果から、茶色目の穴が閉じていないか、また、排水路付近の細かい情報を得ることができます。すでに得られたこれらのデータを解析して、どのような目の構造の人で穴が閉じやすいのかを明らかにします。</p>
その他	なし
個人情報について	<p>利用する情報、検体からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。</p>
問い合わせ等の窓口	<p>所属：旭川医科大学 眼科</p> <p>氏名：中林 征吾</p> <p>電話番号：0166-68-2543（眼科医局）</p>